

会派行政視察報告書

会派行政視察における結果について、下記のとおり報告します。

令和7年4月9日

光市議会議長 森戸芳史様

光市議会会派「いぶき」代表 河村 龍男

議員 大田 敏司

記

- 1 調査年月日 令和7年3月27日（木） 10:00～15:00
- 2 調査市等
 - (1) 埼玉県飯能市
 - (2) スポーツ庁 地域スポーツ課
- 3 視察テーマ
 - (1) 廃校舎の利活用について（埼玉県飯能市）
 - (2) 学校部活動の地域移行について（スポーツ庁）
- 4 調査結果 別紙のとおり

飯能市行政視察報告書

令和7年3月27日会派いぶきで会派視察を行いました。

現状、光市では小中一貫教育へ向けて準備を進めています。令和7年度は大和学園へ向けて小中一貫の基本計画ができますが、一方、大和地域の4つの小学校が廃校になるため、地域のコンセンサスを得ながら手続きを進めていくこととなります。

飯能市では3校統合のため平成31年3月閉校し、同年4月に施設隣接型小中一貫校「奥武蔵創造学園」を開校し跡地利用にあたっては地域振興につなげてほしいという意見を受け、令和元年10月「みんなの廃校プロジェクト」掲載、同年8月学校法人早稲田学園から旧東吾野小学校に地域と連携した通信制高等学校を開校したい旨の申し出があり、令和2年11月利活用推進協議会と事業者が「東吾野地区の地域活性化に向けた連携と事業者が合意し利活用に関する要望書を市長に提出、令和3年7月市と事業者及び連絡協議会が利活用に関する基本協定を締結し市も学校開放に向けて協力することが決定、令和3年9月跡地貸付に関する議案を市議会へ提出、可決、令和3年10月賃貸借期間の開始、令和4年3月県知事より「わせがく夢育高等学校」の設置認可、同年4月開校。

地区住民へは協議の進捗状況について文書を地区内全戸配布、その他地域の広報紙などで情報を発信し、地域での周知、理解をはかった、廃校は

地域の終わりではなく、始まり、地域の活性化へつなげるよう市、地域、事業者がともに望むように進捗するはずはありませんが、現状を、開示し、地域と事業者、市の連携が必要なことが確認できた。

スポーツ庁行政視察報告書

部活動の地域連携・地域移行について

光市では令和7年度末をもって中学校部活動を廃止すること、これまで部活動の果たしてきた大きな役割を顧みることなく教職員働き方改革の名のもと子供たちへの影響はないのか本当のところはどうか、発信元である、スポーツ庁地域スポーツ課を訪ね、その真意について勉強に行きました。当日は地域スポーツ課長に対応していただき、現状の子供たちの置かれている状況について説明をいただきました。

改革の基本的な考え方として、急激な少子化が進む中でも、将来に渡って生徒が継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保・充実すること。学校単位で部活動として行われてきたスポーツ・文化芸術活動を、地域全体で関係者が連携して支え、生徒の豊かで幅広い活動機会を保障。地域クラブ活動においては学校部活動が担ってきた、教育的意義を継承・発展させつつ新たな価値を創出することが重要。

上記の理論等をよりの的確に表すため、地域全体で連携して行う取組みのうち地域移行という名称は地域展開に変更（地域展開を行い、学校部活動～地域クラブ活動に転換した場合であっても、地域クラブ活動の実施に当たって、学校施設に活用等、学校との連携は図る必要）

地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議では8点に

ついて対応が求められた、

1. 地域クラブ活動を担う運営団体・実施主体の体制整備
2. 指導者等の質の保証・量の確保
3. 活動場所の確保
4. 活動場所への移動手段の確保
5. 大会やコンクール運営の在り方
6. 生徒・保護者等の関係者の理解促進
7. 生徒の安全確保のための体制整備
8. 障害のある生徒の活動機会の確保

地域展開を図るにはまだまだ多くの課題が残されていて、まず光市のアドバイザーを確保し地域クラブ活動アドバイザー事務局と連携を計り、生徒のため、子どもたちのことを一番に考え進めて頂きたいと思いました。

これから8つの課題を整理しながら部活の地域連携を進め、進めてよかったですと思われる、部活の地域移行、連携になれるよう努力していきたいと思っています。